

令和4年度研修概要

下関市立豊田下小学校

1 研究主題

生き生きと活動し、主体的に学ぶ児童の育成
～ 見通しをもち 自ら学び進める授業をめざして ～

2 研究の概要

令和2年度からの新しい学習指導要領では、改定の方向性として、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が示されている。

「主体的な学び」とは

- ・ 学ぶことに興味や関心を持つ
- ・ 学習内容を自分のキャリアの方向性と関連づける
- ・ 学習の見通しを持ち粘り強く取り組む

「対話的な学び」とは

自己の考えを以下の3つの方法で広げ・深めること

- ・ 子ども同士で協働（協力して共に学習を進める）
- ・ 教職員や地域の人との対話
- ・ 先哲の考え方を手掛かりにする

「深い学び」とは

- ・ 知識を関連付ける
- ・ 問題を見つけ解決策を考える
- ・ 思いや考えを基に創造する

その学びを進めるために、①（知識の）習得 ②（習得した知識の）活用 ③探究 のステップで学習を進めるとされている。

そして、学習指導要領の改定の「審議のまとめ」には、次のような記述がある。

「今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちが『何ができるようになるか』を明確にしながらか、『何を学ぶか』という学習内容と、『どのように学ぶか』という学びの過程を組み立てていくことが重要になる。『見方・考え方』を軸としながらか、幅広い授業改善の工夫が展開されていくことを期待するものである」とある。

つまり以下のことが重要になる。

- ① 「何ができるようになるか」というねらいを明確に
- ② 「何を学ぶか」という学習内容
- ③ 「どのように学ぶか」という学びの過程

本校では令和2年度より複式学級ができ、指導の在り方を模索してきた。

その中で、子供が「何ができるようになるか」を明確にするために、どのようなめあてを設定するのか。子供達が自ら学び進められるような課題を教師が先を見通して設定していくことが重要である。

次に、「何を学ぶか」については、それぞれの単元で知識として何を習得させなければならないのかを、教師がしっかりと意識し、授業の組み立てや指導内容についてしっかりと考えることが大切である。

最後に、「どのように学ぶか」については、教師が一つ一つ指示を出さなくても、児童がリーダーとして、一人学びやとも学びを進めていけるような力をつけていく必要がある。また、特定の児童だけがリーダーになるのではなく、全員がリーダーとして活動できるような力をつけていかなければならない。リーダーの指導については、スモールステップで行い、教師がリーダーを育てるためにどのような指導をすればよいかをしっかりと理解し実践していくことが必要である。

複式学級では、1時間の授業のうち、半分の時間は自分たちで学習を進めなければならない。先生の指示を受けられない時間をマイナスとして捉えるのではなく、自分たちで主体的に学び進める時間と捉え、学習の仕方や、リーダーを中心にみんなの意見を出し合っで学習を進めることで「児童自らが主体的に学び進める授業」の実現につながるものと信じて研修に臨んだ。

今年度はサブテーマに「見通しを持ち」というキーワードを付け加えて研修を進めた。ICT を効果的に活用

しながら、児童だけで授業が進められる時間が少しでも増えるように取り組んでいく。また、特定の児童だけにリーダーの役割をさせるのではなく、全員がリーダーとして主体的に学習に臨めるような働きかけをしていきたいと考える。

今後、完全複式への移行を考慮に入れつつ、単学年の学級もリーダーとして活動できる児童を育てるリーダー指導を行っていく。

3 今年度の研究課題解明のための取り組み

(1) 授業改善のための取り組み

- ① 研修ビジョンの作成
- ② 豊田下小授業づくり10の視点
- ③ 授業研究 一人一授業とする。(国・算)
- ④ 自主公開授業 (あらゆる機会を活用して)

(2) 学力向上のための取り組み

- ① 『豊田下小学校 スタンダード』 — 授業づくり、学習指導の手引き
- ② 学力調査、確認問題等の分析・考察 及び それらを受けての実践
- ③ 学力向上プラン(国・算)の作成
- ④ 昼の読書・読み聞かせ
- ⑤ 視写(木曜日の朝学)
- ⑥ 算数チャレンジ、やまぐち学習支援プログラム、学習プリントプラスの活用
- ⑦ 家庭学習の定着

4 主な研修の内容

(1) 研究主題解明のための研修

- ・主題研修(個人研修・ブロック研修・全体研修)
- ・研究主題解明のための研究授業(一人一授業)

(2) 教員の資質を高めるための研修

- ・授業力向上を目指した自主公開授業(互見授業)
- ・指導者を招いた研修
- ・技能教科の指導力向上を図る研修

5 今年度の成果と課題

今年度、研修を深めていく中で、多くの成果が見られた。特に授業研究を通して、複式学級の授業に向けて基本的な共通事項を確認しつつ各々が工夫をし、積極的に取り組むことができた。また児童も意欲的に学習に取り組み、自ら授業を進めるスキルと主体的に学ぶ意欲を身につけつつある。だが、課題点も見つかり、取り組むべきことも明らかになってきた。来年度に向けて、成果と課題をしっかりと把握し、より一層研修に取り組んでいきたい。

今年度の成果と課題については、以下にまとめる。

成果

- ・単式学級でも複式学級でも、授業をする上で大切なのは「児童が主体的に学ぶこと」であるという共通認識を学校全体で持ち、各学級で日々実践に励むことができた。
- ・教師の意識が教師主導から児童主体へと変化したことで、「児童に任せて学習を進める時間」と「教師が学習内容をきちんと身につけさせる時間」のメリハリをつけることが大事という共通理解を得た。そのための教材研究を大切にしていかなければならないことを改めて確認することができた。
- ・児童自身が学習を進め、共学びをすることで、学習への理解度が高まる場面が見られた。
- ・講師を招聘して、具体的な話を聞くことで、全教職員が複式学習への理解を深めることができた。
- ・複式における学習指導案の書き方を全体で学び、学校で統一することができた。
- ・ICTの活用が「とも学び」で効果を発揮するので、積極的に活用、開発するために研修を続ける。

課題

- ・リーダーを中心にクラス全体でガイドを共有して授業を進めようとしているが、児童だけでも学びに対して臨機応変に対応ができるように支援し、より主体的な学びを推進することが必要である。
- ・豊田下小学校のリーダー学習の型を作り、授業者全体で理解してより効果的な指導の向上に努める。
- ・教員同士でリーダー学習の研修を行う際に全体として統一する所、各々の考えで行う所をしっかりと確認し、統制のとれた研修にしていくことが重要である。
- ・研究授業で複式に詳しい外部の講師を招聘し、さらにより研修になるように努力していきたい。
- ・ICTの活用で教員間の理解の差があるので、研修でよりよい方法を共有できるようにする。